横浜市小学校社会科研究会

研修会記録

第　４　号

令和元年　　10月30日
横浜市小学校教育研究会
会長　　榮　　秀　之
横浜市小学校社会科研究会
会長　　新　井　　篤　志
同　学年部長　　加　藤　沙　智　子

【提案日時】
９月４日（水）

【会　場】
横浜市立丸山台小学校

提案　小林　宏幸先生（山元小）
森　圭一郎先生（西富岡小）
司会　山本　哲二先生（上末吉小）
辰野　経（伊勢山小）
記録　鈴木　亮（下田小）
近藤　舞（牛久保小）

小林先生提案

〇単元名：自然災害とともに生きる～東日本大震災から考える日本の防災～

〇提案者より

・事例から入ると、日本全体を見つめるような展開になりづらい。
　→「日本のどこでどのような自然災害が起きているか」という、日本全体を俯瞰する学習から、単元をはじめた。
・学習する際、「日本はどのように自然災害に対応しているのか」と「自分たちの住む山元町では、どのように対応しているのか」といった問題意識は、子どもの中で併存しているような気がする。
　→「単元を見通す学習問題」の文言を設定するのに、とても悩んだ。

〇協議内容

・日本全体の自然災害を扱う、としたときに、災害一つひとつを調べていくような、単なる事例学習に陥らないようにしないといけない。
・日本と外国との比較をすると学習が深まるのではないか。
・自分にも無関係ではない、という意識が醸成されるとよい。
・事例に深く迫る中で、自然に日本全体の問題を考えることにつなげていく展開も考えられるのではないか。
・詳細な展開や、本時について、次回話し合えればよいのではないか。

森先生提案

〇単元名

「情報を生かして発展する外食産業～ビッグデータを活用する回転寿司店S～」

〇提案者より

・情報と産業の関わりを考えたときに、販売にあたるものになる。情報活用では寿司管理システ

ム（特許をもっている）を使っている。その情報の有効性について考えていく。
・2011年から寿司店の売り上げトップをキープしていることを取り上げて単元を組み立て　ていく。
・情報をどのように生かしているか。→スマホでの予約（店舗・人数・日時）によって待ち時間を減らすことができる。皿にICチップが埋め込まれている。このような情報を収集し、総合管理システムで客層に合わせて商品の選択をし、提供している。
・500店を超し、顧客満足度No.1になっていることと情報活用していることは関係があるのではないか。ニーズに合わせた特許をもち、寿司の廃棄量が約4分の1になった。
・総合管理システムを扱ったS店の取組みを見ていくことを通して、日本全体へと目を向けていきたい。
・S店の優れていることは、情報源が豊富ということ。人数や皿の種類、売れ残りなど把握している。だからこそ特許を取ることができる。
〇グループ協議
・「情報」は大人の視点が多い。子どもに近づけるにはどうしていくか。→「売り上げ1位」だけだと、おいしいからなどの理由が出てくる可能性がある。コンビニでの情報活用に触れながら、「情報」のことに目を向けさせたい。
・寿司ではないメニューがあるのはなぜか、を予想したり考えたりすることも考えられる。
・「売り上げ1位をキープ」は本当に情報活用のおかげなのか。→「総合管理システムはすごい」がある方が、学習の意欲になる。何か具体的なデータがあると単元を見通す学習問題がつくられるのではないか。（子どもの「なぜ？」が出てくる。）
・他のお店との比較によって「S店だけがよい」にならないようにしたい。
・「店長の経験」はどこで活きるのか。客層のデータはあるが、天気や行事などはデータとしては、ないのではないか。→経験の浅い店長が増えてきている。そのサポートをするために総合管理システムが導入された。店舗によるばらつきをなくすため。
・どこまでが情報システムで、どこが人の判断なのかがわかるようにする。
・情報管理システムを見ていったあと、どのように「店長の話」をスムーズに入れるにはどうするか。→「全部機械ですればいいのに」という発言が出てきたら？
・大量の情報を選び取ることが、店にとってよいことだというのを見せるには、どのようにするか。店のルーティンが変わるのか。→ビッグデータをS店がもっていることが、どれだけすごいことなのか。「便利になった」だけではなくて、「人間にはできないこと」と「人間の経験」が掛け合わさることのよさを考えさせていく。

＜講師の先生より＞

菊名小学校　校長　野間　義晴先生
・今回の検討で、全体の流れについては共有できた。方向性もこれでよい。あとは、本時の展開など、細部を11月の検討の場で詰めていけばよいのではないか。
・情報管理システムを具体的にわかるようにし、ブラッシュアップさせていく必要がある。ビッグデータをどのように活用しているのかということを考えていくことが大切。

文責　　加地　亮祐　　（新鶴見小学校）